

文系学生でも分かる Python の教科書

昨今、業務未経験からの IT 業界への転職や筆者のような文系学生が IT 企業に就職するといったことが流行している。そこで問題になってくるのが、ただでさえ挫折率が高いと言われているプログラミング学習に、全くの未経験者である文系学生が一体どうやって取り組んでいけばよいのかということである。

筆者自身もプログラミングに触れたこともないような状態から約 3 年間情報系のゼミに所属し、現在も四苦八苦しながらプログラミングについて学習してきた。そんな中、一体どのような教材であればプログラミング未経験の人でも分かりやすく、実践的な知識を学ぶことができるのだろうかということを明らかにするのが本稿の目的である。

筆者の所属するゼミでは主に Python というプログラミング言語について学習していた。Python はコードが非常に読みやすく設計されており、エラー箇所の特定などがしやすく、さらには文法が非常に分かりやすい為、プログラミング未経験者でも比較的学習しやすい言語であると言われている。

本稿では、安達らが行ったプログラミング学習過程でのつまづき箇所の分析を参考に、Python について特に詳しい解説がなされている『入門 Python 3 第 2 版』（オライリー・ジャパン 2021 年刊）（以降「オライリー」と記述）と比較的内容が浅く、噛み砕いた解説がなされている『Python1 年生 第 2 版 体験してわかる！会話でまなべる！プログラミングのしくみ』（2022 年刊）（以降「Python 1 年生」「1 年生」と記述）を比較して文系学生でも分かる Python の教科書とはどんなものかということの研究した。

その結果、プログラミング学習を効率的に進める鍵として抽象化というものが挙げられるのではないかと着目するに至った。そこで考えられるベストな教科書の定義というものは、内容を抽象的に捉え、読者が頭でイメージしやすい言葉の表現の仕方などを意識して書かれたものであり、且つ詳細に関する情報を適切な量でまとめたものであると考える。ただし、この両方のバランスをどのようにして上手く取っていくのかという点に関しては、完全に著者の腕の見せ所だと言える。